

# ポルトガルにおける国際学術交流の実際 第1報 (ポルトガル医師電気鍼協会, ポルトガル統合医療連盟, クリニカ・ツチヤにおける活動) -鍼医学を中心として-

鶴 浩幸<sup>\*1), 2), 3), 4), 5), 6), 7)</sup>

<sup>1)</sup>明治国際医療大学 鍼灸学部, <sup>2)</sup>明治国際医療大学 国際交流推進センター, <sup>3)</sup>クリニカ・ツチヤ(ポルトガル),  
<sup>4)</sup>ポルトガル医師電気鍼協会, <sup>5)</sup>ポルトガル統合医療連盟, <sup>6)</sup>Sport Lisboa e Benfica,  
<sup>7)</sup>Escola Superior de Saúde Ribeiro Sanches(ERISA 大学, Lusófona Group)

**要 旨** 筆者は2019年1月から2022年5月まで明治国際医療大学と包括的学術協定を締結しているポルトガルの各施設への海外業務を兼ねた留学研修を行った。

筆者はA. P. A. E. Medical Doctors Group (ポルトガル医師電気鍼協会), Federação Portuguesa de Medicina Integrativa (ポルトガル統合医療連盟), Escola Superior de Saúde Ribeiro Sanches (ERISA 大学, ルゾフナ・グループ), Sport Lisboa e Benfica (スポーツ・リスボア・エ・ベンフィカ), Clinica Tsuchiya (ツチヤ・ペイン・クリニック), などに出向し, 教育・臨床・講演・関連資格取得・研究指導・専門職学位審査などを含む国際学術交流を行った。

第1報では主に, ポルトガル医師電気鍼協会, ポルトガル統合医療連盟, ツチヤ・ペイン・クリニック, などにおける国際活動について報告する。

**Key words** ポルトガル Portugal, 国際学術交流 international academic exchange, 鍼医学 acupuncture medicine, 鍼麻酔治療法 acupuncture-anesthesia treatment method, 高等教育機関 higher education institutions

## I. はじめに

筆者は2019年(令和元年)1月21日から2022年(令和4年)5月11日までの期間において, 明治国際医療大学とポルトガル各機関との包括的国際学術協定に基づき, ポルトガルの各関係機関において海外業務を含む留学研修を実施した。

本論文(第1報)では, 主として, ポルトガル医師電気鍼協会, ポルトガル統合医療連盟, ツチヤ・ペイン・クリニック, などにおける留学研修の成果や国際学術交流の実際について報告する。その成果には, 鍼医師(Doctor of Medicine in Acupuncture)の免状(ディプロマ)なども含まれている。

## II-1. ポルトガルにおける主な留学研修機関とその職位

\*連絡先: 〒629-0392 京都府南丹市日吉町  
明治国際医療大学 鍼灸学部  
E-mail: h\_tsuru@meiji-u.ac.jp

以下に、ポルトガルにおける主な留学研修機関について記載する。

- 1) Clinica Tsuchiya (ツチヤ・ペイン・クリニック) : 招聘教授
- 2) A.P.A.E. Medical Doctors Group (Portuguese Association of Electric Acupuncture Medical Doctors Group: ポルトガル医師電気鍼協会) : 教授
- 3) Federação Portuguesa de Medicina Integrativa (F.P.M.I. : ポルトガル統合医療連盟) : 教授

ジョアン・アルメイダ 博士からの承認書に従い、2019 年 6 月から鶴浩幸 博士は資格を与えられ、クリニカ・ベンフィカでのスポーツ医学の分野における留学研修と研究の実施が承認された。また、クリニカ・ツチヤの院長である土屋光春 医師が、明治国際医療大学准教授である鶴浩幸 博士のプレゼンスについてポルトガルでの責任を負うことをここに宣言する。

2019 年 3 月 15 日

## II-2. 各留学研修機関からの招聘状

以下に関連資料として、各機関からの招聘状の内容を記載する。複数ある招聘状の代表的なものを示す。

- 1) ポルトガル医師電気鍼協会、ポルトガル統合医療連盟および Sport Lisboa e Benfica, などからの招聘状

(招聘状の和訳) ポルトガルにおいて「ポルトガル医師電気鍼協会」、「ポルトガル統合医療連盟」、「クリニカ・ベンフィカ、スポーツ・リスボア・エ・ベンフィカ」などでの鍼医学の研究や留学研修のために鶴浩幸 教授を招聘する。

2020 年 12 月 18 日

- 2) クリニカ・ツチヤ(ツチヤ・ペイン・クリニック)からの招聘状  
(招聘状の和訳) クリニカ・ベンフィカに代わって

## II-3. ポルトガルにおける海外業務・留学研修などの各活動のために必要なビザおよびレジデンス・カードの取得

前述した各機関において、筆者らが希望するような、ポルトガル政府公認の公的な諸活動を行うためには、ポルトガル大使館やポルトガル内務省移民局(SEF)に必要書類を提出、申請して、D3 ビザやレジデンス(ID)カードを取得する必要があった。まず、日本国内にてポルトガル大使館を介して D3 ビザ(研究活動、高等教育機関における教員活動、または高度な専門性を必要とする活動などに必要なビザ)を取得し、その後、ポルトガル現地の SEF を介してレジデンス・カードを取得する必要があった。ポルトガル政府より D3 ビザやレジデンス・カードを取得しなければ、筆者らが目的とするポルトガルにお

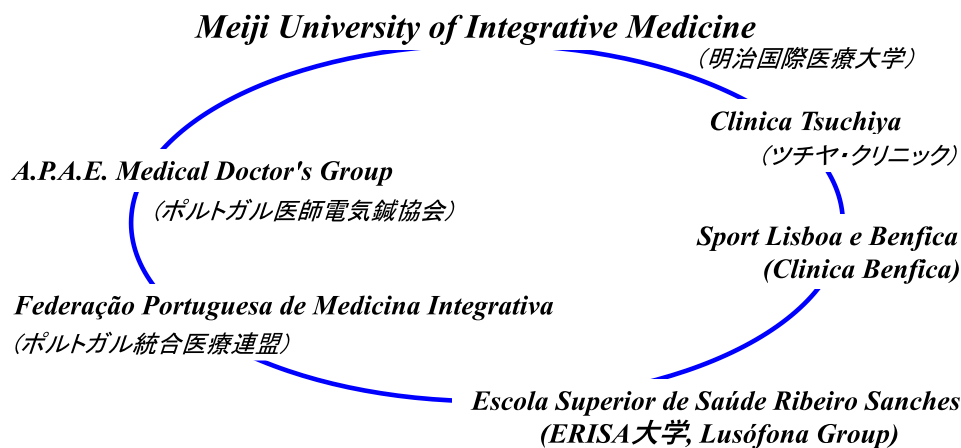


図 1 明治国際医療大学のポルトガルにおける国際コラボレーション・ネットワーク

ける公的な活動を堂々と合法的に実施できなかった。

なお、ポルトガルの内務省移民局 (SEF) によれば、「最初は1年間のレジデンシア・カードを取得し、その後、1年が経過した時点において、3年間のレジデンシア・カードを申請し、取得できる。」とのことであった。上記1年間および3年間のいずれの場合においても、当局の審査に通ることが必要である。

そのため、筆者は最初に1年間のレジデンシア・カード、その後、3年間のレジデンシア・カードを取得することとなった。

## II-4. ポルトガルでの海外業務を含めた留学研修の過程において取得したディプロマ（免状や証明書）

以下に、ポルトガルでの海外業務を含めた留学研修の過程において取得したディプロマについて記載する。

### 1) ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟からの鍼医師の免状

（ディプロマの和訳）鶴浩幸 教授は、ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟における鍼医学に関する全ての研修を修了した。このことにより、彼が鍼医師であることを認める。また、鶴浩幸 教授は、ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟のメンバーである。

2022 年 1 月 21 日

### 2) ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟からの「ピカパウ療法や鍼麻酔、鍼による鎮痛治療などの全て」を習得したことに対する証明書

（証明書の和訳）鶴浩幸 教授は、クリニカ・ツチャにおいてピカパウ療法や鍼麻酔、鍼による鎮痛法などの全てを習得したことを認める。

2022 年 1 月 21 日

### 3) 留学研修初期に取得したポルトガル医師電気鍼協会からの研修開始時のディプロマ

本ディプロマは、D3 ビザ（研究活動、高等教育機関における教員活動、または高度な専門性を必要とする活動などに必要なビザ）取得のための必要書類

として、日本のポルトガル大使館に提出した。

（ディプロマの和訳）鶴浩幸 教授はクリニカ・ツチャにおいて電気鍼に関する3ヶ月のコースを修了したことを証明する。

2019 年 5 月 15 日

## III-1. 留学研修機関の概略

図1は、本留学研修における明治国際医療大学を中心としたポルトガルの各施設における「ワールド・コラボレーション・ネットワーク（国際学術交流のネットワーク）」を示す。本留学研修における活動には、「国際学術交流・国際活動・国際協力」などが含まれる。なお、Sport Lisboa e Benfica（スポーツ・リスボア・エ・ベンフィカ）および Escola Superior de Saúde Ribeiro Sanches（ERISA 大学、ルゾフナ・グループ）については、第2報において記載する。

クリニカ・ツチャ（ツチャ・ペイン・クリニック）は、ポルトガルにおける諸活動の中心となるクリニックであり（図2）、鍼治療を主体とするクリニックである。これまで40年以上、述べ40万人以上にわたる治療実績から来院患者は非常に多岐におよんでいる。クリニカ・ツチャは本来ペイン・クリニックであるが、現在ではペイン・クリニックとは思えないほど患者は多岐にわたっており、ありとあらゆる患者が来院する。運動器疾患（整形外科系疾患）だけではなく、内科疾患や外科系疾患、感覚器系疾患、精神疾患、歯科疾患、腫瘍疾患、皮膚疾患、など多種多様な多くの疾患、症状についての治療（鍼通電、通常の鍼、灸、ホットパック、アイシング、ホットパック/アイシングの同時刺激法、ホットパック/アイシングの交換刺激法、指圧、皮内鍼・円皮鍼、テーピング、刺絡、などを含む）が行われている。他科からの紹介患者や医師自身の来院も多い。なお、クリニカ・ツチャには、サルダーニャ本院とベンフィカ分院があり、筆者は両院にて研修および診療を行ったが、ベンフィカ分院は2022年に閉院した。

ポルトガル医師電気鍼協会は、1978年に設立されたポルトガルにおいて鍼治療を行う医師の協会であ

り、ポルトガル政府公認の公的団体である。

ポルトガル統合医療連盟は、2013年に設立された、ポルトガル政府公認の統合医療の公的団体であり、多くの医療関係団体から成っている。当該団体はポルトガルにおける統合医療の主要な連盟である。筆者らは当該団体を「フェデレーション」とよんでいる。ここには、ポルトガル日本統合医療大学などを含めたいくつかの学校やポルトガル医師電気鍼協会なども含まれる。筆者はポルトガル統合医療連盟やポルトガル医師電気鍼協会のメンバーであり、教授でもある。ポルトガル統合医療連盟やポルトガル医師電気鍼協会を中心として定期的に国際講演会や講習会などが開催されており、これまでに、明治国際医療大学などからの研修生もこれらの学会、研修会に参加している。ただし、現在は、コロナウイルスのパンデミックの影響で学会、研修会などは中断されている。



図2 クリニカ・ツチヤ

## III-2. 各留学研修機関における国際学術活動の実際

- 1) クリニカ・ツチヤ、ポルトガル医師電気鍼協会、ポルトガル統合医療連盟などにおける活動<sup>1)</sup>

最初に、クリニカ・ツチヤでの具体的な活動について述べる。

留学研修当初、筆者はクリニカ・ツチヤでの研修を受けた後、本クリニックでの診療を開始した。クリニカ・ツチヤ（ツチヤ・ペイン・クリニック）院長の土屋光春教授はリスボン大学医学部を卒業し、麻酔科医

となった。その後、東京大学医学部麻酔科に留学され、東京大学医学部名誉教授である麻酔科医の山村秀夫医師（第2代 全日本鍼灸学会会長）に師事された。土屋教授は、当時、ポルトガルにおいて鍼治療を行うために医師となった。土屋教授は、ポルトガル-日本統合医療大学副学長、世界鍼灸学会連合会 (World Federation of Acupuncture and Moxibustion Societies ; WFAS) 名誉副会長、A.P.A.E. Medical Doctors Group 副会長、Federação Portuguesa de Medicina Integrativa 副会長、Saint Louis 病院 麻酔科主任、Europe Electric Acupuncture Institute 会長、明治国際医療大学客員教授、など多くの役職を兼任している。

WFAS は世界中の国々の主要な鍼の学術団体が加盟している世界的組織であり、WHO（世界保健機関）との直接の公的関係をもった組織である。2019 年はトルコのアンタルヤにて WFAS の執行理事会や学会が行われたが（図3）、土屋教授は明治国際医療大学での国際講演会出席のため WFAS への参加ができなかったため、その代理として、筆者がポルトガル代表、ポルトガル医師電気鍼協会代表として出席した（図4）。

次に、ポルトガルの医師が学び、クリニカ・ツチヤなどで実践されている「ツチヤ・ペイン・クリニック方式鍼治療（鍼麻酔治療法）」について紹介する。鍼麻酔治療法（土屋式鍼治療）は、土屋医師の主にポルトガルを中心とした40年以上、延べ40万人以上にわたる鍼医学の臨床実績と臨床観察およびリスボンにある Hospital Saint Louis（セントルイス病院）などでの研究から導き出された一連の実践的鍼医学診療法である。本鍼治療法は、ポルトガル医師電気鍼協会やポルトガル統合医療連盟などで教えられている。

土屋医師が編著した「The Doctor's Handbook to : A New Perspective to Electro Acupuncture and A Brief History of The Mitsu Method of "Pica Pau"」は、ポルトガル医師電気鍼協会やポルトガル統合医療連盟において、医師などに鍼医学を教える際の主要な教科書の1つとして使用されている<sup>2)</sup>（図5）。本書で紹介されている鍼麻酔治療法は実践的鍼治療法であり、その対象疾患は内科疾患、感覚器疾患、運



動器疾患，皮膚疾患，泌尿器疾患，婦人科疾患，スポーツ外傷など多岐にわたる．本書で用いられているピカパウ（Pica-Pau）と名づけられた独特の断続的高頻度鍼通電療法やペインフル・ポイント（治療点）を用いた治療が大きな特徴である．

筆者も第3版において，原稿を執筆，編集した．鍼麻醉治療法とは何か，鍼麻醉治療法を分かりやすく15の手技に分けて記載したもの，そして，「ペインフル・ポジション，ペインフル・ポイント」という独特の鍼治療手技の詳しい図，耳鳴の鍼治療法，鍼治療の考え方，鍼麻醉治療法のまとめ，などの原稿を加えた．本書は矢野 忠名誉学長や川喜田健司特任教授，ジョアン・アルメイダ客員教授なども執筆に協力している．

鍼麻醉治療法では，約70%の西洋医学知識，30%の東洋医学知識の割合で患者を診療する．そのため，基本的には血液検査，レントゲン検査，および鍼医学的診察などを総合的に判断し，鍼治療を行う．クリニック・ツチャでは運動器疾患だけではなく，内科や外科系疾患，感覚器，精神疾患，歯科領域，腫瘍疾患，皮膚疾患，など多種多様な多くの疾患，症状についての治療が行われていた．これらの疾患には，日本における鍼灸治療では皆無または非常にまれなものも含まれている．鍼麻醉治療法には東洋医学も含まれているが，土屋医師のこれまでの臨床実践や研究などによって臨床上有効と思われるもののみが抽出されている．

図6は，筆者が実際にクリニック・ツチャにおいて経験した疾患や症状のごく一部である．このように，様々な患者が訪れているが，スポーツ選手では，ポルトガル・チャンピオンあるいはヨーロッパ・チャンピオン，世界チャンピオン，オリンピックなどの選手達も来院していた．

鍼麻醉治療法に基づく鍼治療法は種々あり，頻繁に使用されるのは鍼通電療法であるが，土屋医師が考案，編み出した独特の手技を用いるため，その一部を紹介する<sup>1,2)</sup>．

1つ目の大きな特徴は，「Pica-Pau(ピカパウ)」とよばれる100-200Hz程度の独特な数秒間の断続的高

頻度鍼通電療法である．鍼に数秒間電気を流し，治療点を刺激する．詳細は後述するが，このピカパウと低頻度（1-10Hz程度，特に7Hz程度）の鍼通電治療を組み合わせる用いることが多い．



図3 WFAS(世界鍼灸学会連合会)トルコ大会



図4 WFAS 執行理事会（筆者）

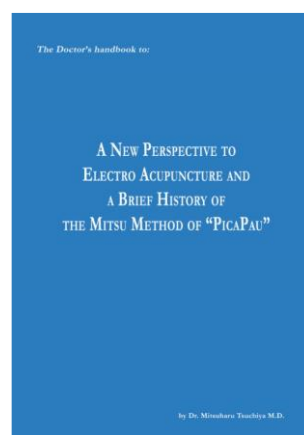


図5 The Doctor's Handbook to : A New Perspective to Electro Acupuncture and A Brief History of The Mitsu Method of "Pica Pau" 3rd edition (改訂版, ISBN : 979-8688848229, Mitsu Publisher, Ltd.)

### 具体的な疾患および症状(一部)

めまい、騒音性難聴に伴う耳鳴、メニエール病、中耳炎、三叉神経痛、顔面神経麻痺、肋間神経痛、带状疱疹および带状疱疹後神経痛、術後疼痛を含む諸症状、交通事故後遺症、慢性甲状腺炎、バセドー病、高血圧、不整脈、息切れ、神経症(ナーバス)、うつ、癲癇、不安神経症、眼感染症、麦粒腫、視力障害、白内障、緑内障、眼瞼下垂、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、排尿障害、夜尿症、尿路感染症、痔、インポテンツ、不妊症、膝管内乳頭粘液性腫瘍、糖尿病、多発性硬化症、パーキンソン病、気管支炎、小児喘息、変形性関節症、筋の部分断裂、頸椎症、手根管症候群、腱炎、靱帯や腱の損傷(十字靱帯損傷、他)、身体各部の炎症、身体各部の関節痛、側弯症、半月板損傷(内側側副靱帯損傷)、急性腰痛、腰部椎間板ヘルニア、変形性腰椎症、坐骨神経痛、線維筋痛症、関節リウマチ、ペーカー嚢腫、脂肪腫、痩身(肥満)、認知症、歯痛、抜歯後の痛み、顎関節症、風邪症候群、乾癬などの皮膚疾患、アトピー性皮膚炎、不眠症、禁煙、オリンピックを含むスポーツに関する障害・外傷、などである。なお、これらは他科との併用治療も多く含まれる。

図6 筆者がクリニカ・ツチヤにおいて経験した疾患や症状

刺激量や刺激強度については細心の注意を払い、適刺激を心がけ、過剰刺激にならないよう留意することが必要である。初診の場合は弱刺激から始めるのが好ましい。

鍼麻酔治療法には「コンビネーション治療」と呼ばれる治療法があるが、これは「ピカパウ」と低頻度鍼通電療法を組み合わせで行う「狭義のコンビネーション治療」、およびピカパウや低頻度鍼通電療法と併用して、①通常の鍼、②灸、③ホットパックまたはアイシング、④ホットパック/アイシングの同時刺激法または交換刺激法(いずれも後述)、⑤指圧、⑥皮内鍼(韓国製および日本製)、円皮鍼、⑦テーピング、⑧刺絡などを用いる「広義のコンビネーション治療」とがある。クリニカ・ツチヤではこれらのコンビネーション治療により前述したような様々な疾患および症状に対して効果を挙げている。ただし、患者の中には治療が非常に困難な症例も少なくないことを付記しておきたい。

ピカパウにはいくつかの手技があり、置鍼時に鍼に高頻度電気刺激を数秒間行う方法や「Chu-Sha-Shin」と呼ばれる比較的太い長鍼(Long Stride Needle)を用いて雀啄しながら数秒間の高頻度電気刺激を行う方法などがある。敏感な患者や小児の場合には短鍼(Short Stride Needle)によるピカパウを行うこともある。通常は通電時や置鍼時に腹部にホットパック

もしくは遠赤外線をあて、免疫機能の向上をさらに促す。また、より多くのレセプター(受容器)を効率的に刺激するため、通電中や置鍼中にホットパック/アイシングの同時刺激法(simultaneous stimulation: 患部に対して表裏からホットパックとアイシングで同時刺激を行う)、あるいは交換刺激法(exchange stimulation: 患部に対する表裏からのホットパックとアイシングによる同時刺激を一定時間で入れ替える治療法)などもよく使用する。

鍼麻酔治療法では、鍼治療(鍼通電治療)がヒトへ与える重要な好影響(臨床効果)として、免疫機能の向上または調整に加えて、血液のアシドーシスからアルカローシスへの変化、軟骨などに含まれるプロテオグリカンの増加、疼痛軽減、体温上昇、自律神経機能調整などを考えている。加えて、血液中におけるエンドルフィン、コルチゾン、ACTH(副腎皮質刺激ホルモン)、セロトニン、HDL(善玉コレステロール)、L-ドーパミン、プロゲステロン、プロスタグランジン E、IL-6、コリンエステラーゼ、インシュリン、オキシトシンなどの増加作用、また、トリグリセリド、レニンレベル、乳酸などの減少作用を有すると考えている<sup>2)</sup>。また、土屋医師によれば、「これらの鍼によって生じる作用はヒトの自然治癒力を賦活した結果であり、それを逸脱したものではない。」と述べている。

2つ目の大きな特徴は、筋のストレッチや収縮を応

用した鍼治療(Acupuncture with Muscle Stretch and Contraction:AMSC)として、「ペインフル・ポジションやペインフル・ポイント」を使用することである<sup>2)</sup>。特に痛みの治療などでは、筋を伸展させて(まれに屈曲させて)、患者が最も痛みを感じる姿勢「ペインフル・ポジション」を取らせた時に現れる最強圧痛点(ペインフル・ポイント)を治療点とすることが多い。ペインフル・ポイントを探る時の指頭による圧迫の強さは9-10kg程度とされる。ペインフル・ポジションを取らせる時には施術者が力を加える(他動)ことがよくあるが、その力加減には細心の注意を要する。鍼麻醉治療法(ツチヤ・ペイン・クリニック方式鍼治療)では、このペインフル・ポイントが治療点として最も重要視されるが、ペインフル・ポイントだけでなく、通常の圧痛点や経穴、トリガーポイントなども重要であり、内科的疾患や症状などの治療点として使用される。

ここで1例を挙げる。肩が痛む時には、図7のような部位にペインフル・ポイントが現れる。



図7 ペインフル・ポイント(●)

具体的には、肩が痛む時には、図8のような「ペインフル・ポジション」を取らせる。「ペインフル・ポイント」は患者によって現れる位置が微妙に異なるため、実際に患者を診察して正確な位置を見つけることが必要である。肩のペインフル・ポイントを見つけるためには、いくつかの「ペインフル・ポジション」のバリエーションがある(図8)。例えば、図8-Aのように肩前面に痛みがある場合、術者は患者の三角筋前面

を図8-Bの赤矢印方向に肩関節を伸展させる。一方、患者はその力に抵抗するように、図8-Bの青矢印の方向に力を入れ、肩関節を屈曲させる。この時に図8-Bに示す×印あたりにペインフル・ポイントが現れる。この関係がペインフル・ポジションとペインフル・ポイントであり、図8-C、図8-Dのような施術でも認められる。

3つ目の大きな特徴は、鍼麻醉である<sup>2)</sup>。鍼麻醉治療法には鍼麻醉の手技が含まれている。

鍼麻醉とは「手術の麻酔を鍼でかける手技」であり、土屋医師は鍼麻醉の世界的な第1人者である。図9は鍼麻醉を行っている時の写真であり、この鍼麻醉の様子はテレビ放送により放映された。

コロナウイルスのパンデミックなどにより鍼麻醉は中断されたが、パンデミックが収束すれば、再開する予定であり、筆者は土屋医師のアシスタントとして鍼麻醉に参加する予定であった。

土屋医師は、麻酔に対してアレルギーのある患者や心臓が悪い患者、麻酔薬の使用を希望しない患者などに対する手術時の鍼麻醉を Saint Louis 病院から依頼され、故マーチン・ピシコ 医師(放射線科医, Saint Louis 病院放射線科部長, 明治国際医療大学客員教授, 他, 塞栓術の世界的権威)と協力して、前立腺炎や子宮筋腫に対する塞栓術など、1-2時間かかる手術などの際の鍼麻醉を成功させている。

土屋医師によると手術の記録が残る Saint Louis 病院において、これまでに合計100例以上の鍼麻醉を成功させている。Saint Louis 病院において本格的に鍼麻醉を開始したのは2006年からである。土屋医師は、この鍼麻醉法を故マーチン・ピシコ医師とともに完成させた。ただし、現在、マーチン・ピシコ医師の御逝去もあり、鍼麻醉は中断している。

次に、ポルトガル医師電気鍼協会、ポルトガル統合医療連盟などでの活動について記載する。本活動については、ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟共催の国際講演会や研修会などの活動が重要となる。

2019年10月20日には「電気鍼と統合医療」の国際講演会がリスボンにて行われた。ポルトガル医師電

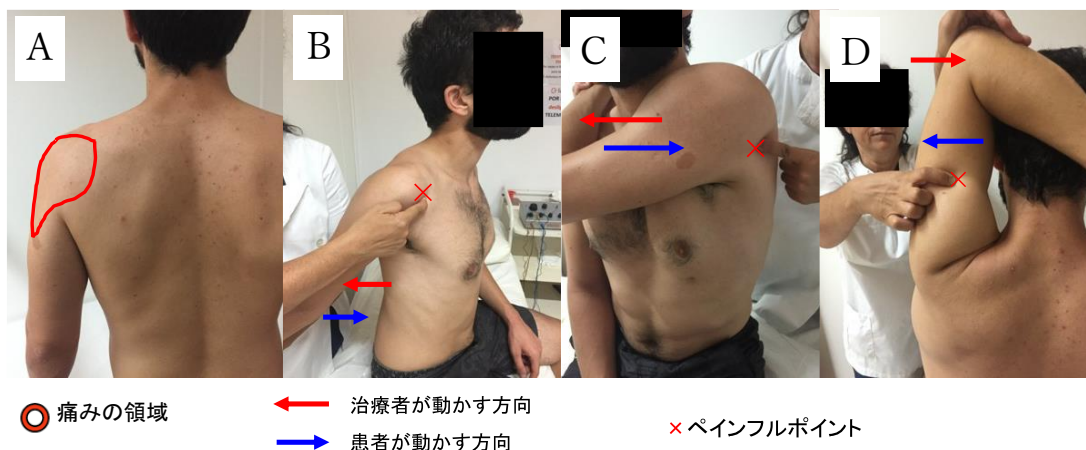


図8 肩が痛む患者におけるペインフル・ポジションとペインフル・ポイント

気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟は定期的にこのような国際講演会や講習会を開催している。本国際講演会は国際学術交流として非常に重要である。参加者は医師が多いが、他の医療関係者も参加する。この時はイギリス、イタリアなどからも講演者が招かれた。また、これまでは明治国際医療大学などからの研修生がポルトガルに来る時期に合わせて開催することが多かった。

本国際講演会では、ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟会長で本学客員教授のジョアン・アルメイダ医師による開会の挨拶および「不眠症の治療と鍼」の講演が行われた。ジョアン・アルメイダ医師はスポーツ専門医であり、ポルトガル・スポーツ医学会会長、FIFA(国際サッカー連盟)理事などを歴任している。次に筆者が「明治国際医療大学の紹介」、「日本鍼灸の紹介」、「耳鳴に対する鍼治療」などの講演(図10, 11)を行った後、リスボン新大学医学部教授で本学客員教授のカスカイス医師から「最新のオリンピック選手のドーピングに関する講演」が行われた。

土屋医師からは「ペインフル・ポジション、ペインフル・ポイント」についての講演が行われた。土屋医師の講演は非常に人気があり、WFASのフランス代表医師のグループからの依頼で、フランスにて講演会が開催されたこともある。

このような研修会を含む国際講演会は、鍼医学の普及や発展、国際学術交流、後進の指導などにおいて、

非常に重要な国際学術活動の一つである。

次に、ポルトガル医師電気鍼協会・ポルトガル統合医療連盟などに関する「その他の活動」について記載する。なお、WFASに関する活動については前述したため、WFAS以外の活動について記載する。

Acupuncturists and Oriental Therapists' Union of the State of Sao Paulo(サンパウロ州の鍼灸師と東洋セラピストの労働組合)主催の学会「Integrative Therapies Online Conference(オンライン・カンファレンス・統合的治療)」からのポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟への講演依頼に基づき、土屋医師およびジョアン・アルメイダ医師との協議の結果、筆者がポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟を代表して、「Integrative Therapies Online Conference」において2つの講演を行った。コロナウイルスのパンデミックにより、本学会は2020年8月24～30日の期間にオンラインにて開催された。筆者の講演は8月28日および8月30日にオンライン・ビデオセッションで行われ、英語からポルトガル語へ翻訳された。

本講演は8月28日に講演①「Characteristics of Japanese Acupuncture and Possibilities of Acupuncture in the Ophthalmology - Especially Visual Acuity and Eye Fatigue- (日本鍼灸の特徴と眼科領域における鍼の可能性-特に視力と眼精疲労について-)」、8月30日に講演②「Acupuncture Anesthesia for Prostate and Uterine Surgery-Embolization of Prostatitis and





図9 土屋光春 医師による鍼麻醉(Acupuncture-Anesthesia)



図10 明治国際医療大学および日本鍼灸の紹介 (筆者)



図11 耳鳴に対する鍼治療 (筆者)

Uterine Fibroid- (前立腺と子宮の手術のための鍼麻醉-前立腺炎と子宮筋腫のエンボリゼーション-)」が行われた。

講演①では、「明治国際医療大学の紹介, 日本鍼灸の特徴, 眼に関する鍼医学の可能性」などについて話した。講演②は, 土屋医師, ジョアン・アルメイダ医師, 故マーチン・ピシコ医師の共同演者として講演を

行った。

本学会関係者によると, 正式参加登録人数は 658 名で, ブラジル以外にアルゼンチン, チリ, ウルグアイ, パラグアイなどの南米の国から 53 名が参加した。本講演は 8 月 28 日および 8 月 30 日のブラジル現地時間 午後 8 時から You Tube にて放送され, 延べ視聴回数が 6,000 回を超えた。「サンパウロ州の鍼灸師と東洋セラピストの労働組合」の現在の会員数は 3,600 名であり, 鍼灸, 気功, 太極拳, ヨガ, 座禅, アロマセラピー, など, 様々な治療が含まれているとのことであった。ブラジルにおける東洋医療関連の治療師は約 10 万人いるとのことであった。

当該学会「Integrative Therapies Online Conference」は通常, 年 1 回開かれるものであり, 今回は第 20 回であったが, コロナウイルスのパンデミックのために第 1 回オンライン・カンファレンスの開催となった。

本活動はポルトガル医師電気鍼協会, ポルトガル統合医療連盟を介した「日本 (明治国際医療大学) -ポルトガル-ブラジル」という国際学術交流の一つの形であり, 多国間コラボレーションであると考えられた。

次に, メキシコがホスト国となって開催された統合医療関係の学会である「第 4 回 MTC 国際バーチャル会議 (MTC: カトリック系慈善事業団体), 21 世紀健康のためのアート及びサイエンス, 学会テーマ: コロナ後後遺症 新パンデミックに対抗する MTC」について記載する。2021 年 4 月に当該学会から土屋医師と筆者に講演依頼があった。筆者らの講演は特別講演として行われ, 講演タイトルは「Chronic Peptic Ulcer and Erosive Gastropathy Treatment with Electric-Acupuncture in Japanese Traditional Medicine on 48 Treatment Cases (48 名の胃潰瘍および糜爛性胃病に対する日本伝統医療における電気鍼治療)」であった。

参加国は, メキシコ, ニカラグア, グアテマラ, コロンビア, キューバ, エクアドル, パナマ, ボリビア, プエルトリコ, ブラジル, アルゼンチン, チリ, ウルグアイ, ポルトガル, ルアンダ, スペイン, モザンビーク, その他, であった。学会関係者によると, 当該学会における日本人の講演は初めてとのことであり,

大学関係者の講演ということもあって、「本学会関係者が大歓迎している。」とのことであった。講演内容は英語からポルトガル語に訳された。

学会(会議)は2021年5月21～23日の期間に開催されたが、筆者らの講演は5月22日(メキシコ現地時間午前7:00から午前7:45まで)に行われた。他の講演者は講演時間が25分(発表20分・質疑応答5分:計25分)であったが、筆者らの講演は特別講演であり、講演時間45分(発表40分・質疑応答5分:計45分)となった。また、修士・博士などの学位を持っている人々のみが参加する講演となった。

筆者が日本に一時帰国した2020年12月3日には、明治国際医療大学にて「第26回 明治国際医療大学国際学術交流講演会」が開催され、筆者は「ポルトガルにおける国際学術交流の実際-鍼医学を中心として-」のタイトルにて講演を行った。(図12)



図12 演者(筆者、第26回 明治国際医療大学国際学術交流講演会)

2020年9月25-26日には、「WFAS アムステルダム/オランダ大会」に出席し、「Acupuncture-Anesthesia and Prostate Tumor Surgery (前立腺手術に伴う鍼麻酔)」の講演を行う予定であったが、コロナウイルスのパンデミックにより、当該学会は中止となった。

### III-3. ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟、クリニカ・ツチヤに関連する主な業績

以下に、ポルトガル医師電気鍼協会およびポルト

ガル統合医療連盟、クリニカ・ツチヤに関連する主な業績を記載する。

#### 1) 書籍

・Tuchiya M, Yano T, Kawakita K, Tsuru H, et al: The Doctor's Handbook to: A New Perspective to Electro Acupuncture and A Brief History of The Mitsu Method of "Pica Pau". 3rd Edition. Mitsu Publishers Ltd. Lisbon. 2020.

・Tuchiya M, Yano T, Kawakita K, Tsuru H, et al: The Doctor's Handbook to: A New Perspective to Electro Acupuncture and A Brief History of The Mitsu Method of "Pica Pau". 3rd Edition (改訂版). Mitsu Publishers Ltd. Lisbon. 2023.

#### 2) 国際学会、国際講演会などでの講演

・Tsuru H: Introduction of Meiji University of Integrative Medicine. Federação Portuguesa de Medicina Integrativa, A.P.A.E. Medical Doctors Group, Clinica Tsuchiya 共催 国際講演会. 2019. 10. 20. リスボン.

・Tsuru H: Acupuncture for Tinnitus-including Application of Tinnitus Reactive Point-. Federação Portuguesa de Medicina Integrativa, A.P.A.E. Medical Doctors Group, Clinica Tsuchiya 共催 国際講演会. 2019. 10. 20. リスボン.

・Tsuru H, et al: Acupuncture Anesthesia and Prostate Tumor Surgery. WFAS(World federation of Acupuncture -moxibustion Societies) 2020 International Symposium on Acupuncture-Moxibustion, Amsterdam/Netherland. 2020. (大会はコロナウイルスのパンデミックにより中止)

#### 3) 授業、セミナーなど(日本でのポルトガル関連授業や講演、リスボンにて日本語で行われた授業などを含む)

・「Acupuncture for Musculoskeletal Pain including Tsuchiya Theory(土屋理論を含む筋骨格系の痛みに対する鍼)」。2019. 9. 17. リスボン.

・「Introduction of Tsuchiya Theory(土屋理論の紹介)」。2020. 3. 5. リスボン.

・「Acupuncture for Ophthalmology(眼科領域の

鍼)」. 2020. 3. 7. リスボン.

・「Painful Position / Painful Point in Acupuncture of Tsuchiya Method and Acupuncture for Post-Cataract Surgery(土屋鍼医学におけるペインフルポジションとペインフルポイントおよび白内障術後のための鍼治療)」. 2020. 10. 12. リスボン.

・「土屋式鍼医学 序論」. 2021. 4. 12. リスボン.

・「通電療法(鍼通電含む)・鍼麻酔 序論」. 2020. 4. 20. リスボン.

・The Effect of Acupuncture - Scientific Consideration -(鍼灸の効果-科学的考察-) . 2021. 9. 11. リスボン.

・オンライン授業「ポルトガルにおける国際学術交流-鍼医学を中心として-」. 明治国際医療大学鍼灸学部1年生 基礎ゼミ II. 2020. 12. 16.

・オンライン講演「ポルトガルにおける国際学術交流の実際-鍼医学を中心として-」. 第26回 明治国際医療医大 国際学術交流講演会. 2020. 12. 3.

・オンライン講演「ポルトガルにおける主要な鍼治療法-土屋式鍼治療について-」. (一社) 三重県鍼灸師会 令和2年度第2回研修会. 2020. 12. 13.

・オンライン講義「最近のポルトガルの鍼灸事情(医療事情を含む)」. 明治国際医療大学 学修支援センター 正課外授業(放課後セミナー). 2021. 11. 30.

・オンライン講義「世界の鍼灸事情-ポルトガル(ヨーロッパ)-」. 明治東洋医学院専門学校 鍼灸学科1年. 2022. 1. 24.

#### 4) 診療業績関連(ディプロマなど)

・ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟から「鍼医師(Doctor of Medicine in Acupuncture)の免状」を取得 (II-4. ポルトガルでの海外業務を含めた留学研修の過程において取得したディプロマを参照).

・ポルトガル医師電気鍼協会およびポルトガル統合医療連盟から「ピカパウ療法や鍼麻酔, 鍼による鎮痛法などの全てを習得したことに対する証明書」を取得 (II-4 を参照).

・留学初期に取得したポルトガル医師電気鍼協

会からの研修開始時のディプロマ(II-4 を参照).

・クリニック・ツチヤ(サルダーニャ本院およびベソフィカ分院) での診療.

・2020 東京オリンピックに参加予定の選手達(陸上競技, 砲丸投げ, ダーツ選手含む) の鍼治療. 2021. 4. 12.

#### 5) 学会発表

・鶴浩幸, 土屋光春, Joao Paulo Almeida, Martins Pisco: ポスター演題「子宮筋腫および前立腺炎の手術(エンボリゼーション)と鍼麻酔」. 第25回 日本統合医療学会抄録集. p271. 2021.

#### 6) その他(ポルトガル在留時に執筆, またはポルトガル代表として WFAS に出席した時の関連論文など)

・鶴浩幸: 世界の鍼灸コミュニケーション(36) ポルトガルにおける主要な鍼治療法. 全日本鍼灸学会雑誌 70(3): p267-276. 2020.

・石崎直人, 鶴浩幸, 他: 国際学術交流 WFAS トルコ大会における執行理事会, 学術交流, 中国発大規模 RCT 解説. 全日本鍼灸学会雑誌 70(1): p75-91. 2020.

### III-4. ポルトガル在留時に行った, その他の国際学会や日本の学会, 協会などに関する主な業績

以下に, その他の業績を記載する.

#### 1) 書籍

・東洋療法学校協会(編), 教科書執筆委員会(著), 鶴浩幸, 他(執筆協力): 新版 東洋医学臨床論 はりきゅう編(教科書). 南江堂. 2022. 4. 8.

・矢野忠(編集主幹), 鶴浩幸, 他(共著): 図解鍼灸療法技術ガイド II-臨床の場で役立つ実践のすべて-. 第2版. 文光堂. 2024. 3. 8.

#### 2) 論文

・石崎直人, 鶴浩幸, 他: WFAS パリ報告. 全日本鍼灸学会雑誌 69(1): p72-85. 2019.

・深澤洋滋, 石崎直人, 斉藤宗則, 鶴浩幸, 他: 国際学術交流 2020 WFAS 執行理事会報告. 全日本鍼灸学会雑誌 71(1): p59-66. 2021.

・石崎直人, 深澤洋滋, 増山祥子, 斉藤宗則, 鶴浩幸, 他: 国際学術交流 2021 WFAS 執行理事会報告. 全日本鍼灸学会雑誌. 72(2): p152-158. 2022.

### 3) その他

・世界鍼灸学会連合会(WFAS) 標準化作業委員会(Standardization Working Committee)委員  
・独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費基盤研究C(JP19K11729)  
・(公社) 全日本鍼灸学会 国際部委員

## IV. 考察

クリニカ・ツチヤでは, 実に多岐にわたる患者が鍼治療を受けており, その効果が長期間におよぶことも多い. 薬物療法は非常に重要ではあるが, 限界があることも事実であり, 多くの患者が鍼治療に大きな希望を見出している. その患者の期待にこたえるためには, 臨床家の継続教育(生涯学習)を含めた鍼医学, 東洋医学, 西洋医学, その他の必要な学術などの広範囲にわたる知識の修得や鍼灸臨床に関連する技術の修得および臨床経験を積み重ねること, などが非常に重要と思われる.

また, ポルトガル医師電気鍼協会やポルトガル統合医療連盟などでは, 医師を中心とした鍼医学の教育が行われており, 鍼医学に関する教育, 臨床において多大なる貢献がなされている.

なお, 筆者の経験では, 外国において日本とは異なる環境下で鍼医学または西洋医学や東洋医学などを学び, 同時に, 学生などに授業を行うことにより, 日本を客観的にみることが可能となり, 教育者, 研究者, 臨床家としてのアイデンティティや必要な自我の強化にも繋がるように感じられた.

筆者は業務を含めた海外留学研修で得た経験や知識などを十分に活用し, かつ, これまでに本学で学ばせて頂いたことも併せて, その内容を応用・統合・昇華させることにより, 日本での活動に軸足を置きながら, 世界的視野をもち, 教育, 種々の実践的研究, 国際学術交流などに寄与していきたいと考えている.

## V. 結語

筆者は2019年1月から2022年5月まで, 明治国際医療大学と包括的学術協定を締結しているポルトガルの各施設において業務を含む留学研修を行った.

筆者は, ポルトガル医師電気鍼協会, ポルトガル統合医療連盟, ERISA 大学(ルゾフナ・グループ), Sport Lisboa e Benfica, Clinica Tsuchiya, などにおいて国際学術交流を行ったが, 本論文(第1報)では主に, ポルトガル医師電気鍼協会, ポルトガル統合医療連盟, ツチヤ・ペイン・クリニック, などの活動を中心として報告した.

誠に僭越ではあるが, 著者は日本やポルトガルにおいて学んだ鍼医学を応用・統合・発展させ, 鍼医学の学術や人々の健康に寄与したいと考えている.

謝辞: 貴重なポルトガルへの留学研修の機会を賜りました明治国際医療大学(明治東洋医学院)の谷口和彦理事長, 矢野忠名誉学長に深く感謝を申し上げます.

日本に帰国後も国際活動に御理解, 御協力を賜っております谷口和彦理事長, 勝見泰和学長, 矢野忠名誉学長, 川喜田健司特任教授, 明治国際医療大学教職員の皆様に深く感謝を申し上げます.

ポルトガルの土屋光春 教授, ジョアン・アルメイダ教授, ジョアン・カスカイス教授, 故マーチン・ピシコ教授, パウロ・サルゲント学長, モニカ・テキセイラ副学長に感謝を申し上げます.

## 文献

1. 鶴 浩幸: ポルトガルにおける主要な鍼治療法. 全日本鍼灸学会雑誌, 70(3): 267-276, 2020.
2. Tsuchiya M, et al: The Doctor's Handbook to: A New Perspective to Electro Acupuncture and A Brief History of The Mitsu Method of "Pica Pau" 3rd edition(改訂版), Mitsu Publisher, Lisbon, pp1-457, 2023.



# Actual International Academic Exchange in Portugal The 1st Report

## (Activities in A.P.A.E.Medical Doctors Group, Federação Portuguesa de Medicina Integrativa and Clinica Tsuchiya)

### - Focusing on Acupuncture Medicine -

Hiroyuki Tsuru<sup>1), 2), 3), 4), 5), 6), 7)</sup>

<sup>1)</sup>*Department of Acupuncture and Moxibustion, Meiji University of Integrative Medicine,*

<sup>2)</sup>*International Exchange Promotion Center, Meiji University of Integrative Medicine,*

<sup>3)</sup>*Clinica Tsuchiya (Portugal), <sup>4)</sup>A.P.A.E.Medical Doctors Group(Portuguese Medical Electroacupuncture Association), <sup>5)</sup>Federação Portuguesa de Medicina Integrativa*

*(Portuguese Federation of Integrative Medicine), <sup>6)</sup>Sport Lisboa e Benfica,*

<sup>7)</sup>*Escola Superior de Saúde Ribeiro Sanches (ERISA University, Lusófona Group)*

#### Abstract

From January 2019 to May 2022, the author conducted study abroad training with work at various facilities in Portugal that have concluded comprehensive academic agreements with Meiji University of Integrative Medicine.

The author has engaged in the international academic exchange activities with A.P.A.E.Medical Doctors Group (Portuguese Association of Electric Acupuncture Medical Doctors Group), Federação Portuguesa de Medicina Integrativa (Portuguese Federation of Integrative Medicine), Escola Superior de Saúde Ribeiro Sanches (ERISA University, Lusófona Group), Sport Lisboa e Benfica and Clinica Tsuchiya (Tsuchiya Pain Clinic).

The international academic exchanges that the author conducted at the above facilities include education, clinical practice, lectures, research guidance, acquisition of related qualifications, and professional degree examinations.

This 1st report mainly describes regarding the international academic activities in A.P.A.E.Medical Doctors Group, Federação Portuguesa de Medicina Integrativa and Clinica Tsuchiya.